

5. 環境保全の基本方針

5.1 環境保全の基本的考え方

本市の特徴と問題点を踏まえ、農村環境保全の基本的な考え方を以下に整理する。

海・里・山の豊かさと連続性の確保

本市は、数多くの名勝地が存在する海岸線、良好な水質の河川、ブナ林など原生的な植生も残されている豊かな山林、それらに依存する多種多様な生物など、多様で良質な自然に恵まれている。このような環境の豊かさは、地域住民の暮らしを彩るだけでなく、農業、林業、水産業などの一次産業を直接的に支え、さらに観光業などのサービス業の基盤ともなっており、京丹後らしさと産業振興、そして地域イメージの向上に大きく貢献している。また農業（農地）は、洪水防止、地下水涵養、土砂流出防止、景観形成等の様々な多面的機能を有しており、地域住民の暮らしにとって最も欠かせないものである。しかし、これらの機能は農業が健全に営まれて初めて発揮される機能である。

このため、本市の振興においては良好な自然環境や農地の保全が極めて重要であり、個別の農業農村整備事業において環境配慮を実施することはもちろんのこと、京丹後の海・里（川 - 水路 - 農地）・山（里山 - 奥山）を豊かにするという広域的・総合的な観点から、農業農村整備事業を関連づけて実施する。

また、市域全体の自然環境の豊かさへの貢献という観点から、農業農村整備事業の事業区域外との連続性の確保、山と農地・ため池・水路の連続性、河川と水路の連続性、水路と農地の連続性の確保など、複数のビオトープと農地及び農業用水利施設が連結し、生物の生息域が連続した、より豊かなビオトープの構築を図る。

環境と調和した農村の持続と環境保全型農業の展開

京丹後市の身近な自然環境の豊かさについては、絶滅危惧種であるメダカや身近な種であるトノサマガエルやホタルが広い範囲で見られることが示しているように、農村地域 里地里山の存在に拠るものが大きい。

環境省の調査によると、絶滅危惧種が集中して生息する地域の多くは、原生的な自然地域よりむしろ里地里山地域であり、身近な種の生息地域の5割以上が里地里山にある場合が多いことが判明し、里地里山が、生物多様性保全上（絶滅危惧種をはじめとする野生生物の保護上）重要な地域であることが明らかになっている。

里地里山地域が存在するためには、まず第1に農業・農村が存続していることが必要である。里地里山の農地を含めた自然は、人々の自然への働きかけによって成り立っている遷移途上の二次的な自然であり、農業が持続されない場合は遷移が進行し、その機能は失われる。

また、京丹後市の食料自給率（カロリーベース）は、平成14年で79%に達しており、日本全体の40%、京都府全体の13%と比較して高い水準を維持している。地域内の高い食料自給率は、流通エネルギーの抑制や効率的な資源循環の可能性を示唆しており、京丹後市がより環境への負荷を抑制したエコロジカルなまちに発展する可能性がある。ただし、経年変化を見ると自給率は減少傾向にある。

このような状況を踏まえて、農業と農村の存続を通じて、生きもののにぎわいに満ち、高い食料自給率を達成し環境への負荷を抑制した地域を維持する。

さらに、環境保全型農業の推進を図り、化学合成肥料・農薬の削減を通じて農地内及び農業用排水路の生物生息空間としての機能を向上させ、有機物や有機肥料を重点的に施用するなど、河川及び日本海の水質への汚濁負荷の削減を図る。これらの環境保全型農業の推進により、京丹後市の自然環境のさらなる質の向上を図る。

なお、環境保全型農業の推進については、本市の地域イメージと適合した農産物のブランド化などにも直結する取り組みであり、環境の側面から経済振興にもつながっていき、農村の存続に結びつく。

京丹後市の環境を支える交流と協働

京丹後市では農業集落を中心に人口の減少と高齢化が進行しているため、本市の身近な自然を支えている農業・農村は中山間地を中心に弱体化が進んでおり、この対応を図る。

農村地域の環境保全に関しては、通常の維持管理に加えて環境に配慮した取り組みに、行政的な援助や、非農家・NPO・地元企業等の参画により、地域で支えていく。そこで、農業・農村を存続させるために、集落営農の実施や、地域農業の担い手の確立、常吉村営百貨店に見られるような住民の共同出資による地元密着型の地域づくりなどを推進する。さらには地域住民で一体となった獣害対策の確立など、農村地域の環境保全に際して地域ぐるみの取り組みを推進する。

本市の豊かな歴史・文化資源及び農村景観についても、健全な集落機能を維持しながら地域ぐるみで保全することが不可欠である。また、地域ぐるみの保全を通じて地域コミュニティのつながりを強化し、都市住民等外部との交流や協働の契機と位置づける。

このような地域ぐるみの協働の取り組みに加えて、すでに国営造成農地への企業の新規参入

の動きに見られるような、他業種からの参入、新規就農者の支援、転入者の誘致を行うなど、積極的に市の外部からの新たな活力を受け入れ、京丹後市の農業振興に結びつける。

また、里山ボランティアや水田オーナー制の導入などにより、都市と農村との交流を推進していくことで、農業・農村存続の後押しと活性化を図る。

本市における農村環境の保全のキャッチフレーズを、以下に定める。

ひと みず みどりが織りなす里づくり

